

A. 本校の教育活動を支える諸活動について〔個人として〕

1. 建学の精神(教育理念)の実現

(1) 教育モットー及び「清泉の教育の根本精神」を念頭に置いて教育活動に携わることが出来たか。

20年度	A	54.2	B	45.8	C	0.0	D	0.0
19年度	A	56.0	B	40.0	C	4.0	D	0.0
18年度	A	39.1	B	54.3	C	6.5	D	0.0

すべてAになるように研修を通じて意識を高めていきたい。

(2) 今年の学校目標について、ホームルーム、授業等の場で、直接的、間接的に折に触れて話し、その実現に努めたか。

20年度	A	16.7	B	70.8	C	12.5	D	0.0
19年度	A	29.4	B	50.0	C	17.6	D	2.9
18年度	A	33.3	B	50.0	C	4.2	D	12.5

建学の精神を基にした学校目標を常に意識しながらそれを実現する場面を作っていく。

(3) ① 朝礼は毎日行うがゆえに特に大事な教育活動である。建学の精神を浸透させる場と意識して、朝礼を行ったか。例えば、放送朝礼の校長の話に触れて自分の体験を話すなど。

20年度	A	33.3	B	45.8	C	20.8	D	0.0
19年度	A	32.4	B	41.2	C	20.6	D	5.9
18年度	A	45.8	B	33.3	C	8.3	D	12.6

Dがなくなった。今後も朝礼を一日のすべての始まりととらえいっそうの充実を図る。

(3) ② 清掃はカトリック校である本校において大切な教育活動である。清掃は特別な時間であることを認識させ、誠実にまた十分に体を動かして清掃するように導いたか

20年度	A	33.3	B	33.3	C	29.2	D	4.2
19年度	A	28.6	B	42.9	C	28.6	D	0.0
18年度	A	25.0	B	45.8	C	25.0	D	4.2

心を整えて清掃に臨む。学校生活の全てに通ずる基本となるよう指導する。

(4) 一つ一つの宗教行事（例：月例の祈り／感謝祭・聖母奉献式／3年静修会／追悼ミサ／クリスマスの集い／1年錬成会／2年聖地巡礼の旅）の意味を十分に理解し、生徒にそれを説明し生徒が建学の精神に触れる機会となるように導いたか。

20年度	A	45.8	B	45.8	C	4.2	D	4.2
19年度	A	50.0	B	38.2	C	5.9	D	5.9
18年度	A	62.5	B	29.2	C	4.2	D	4.1

C及びDが無くなるよう行事の重要性を意識した上で指導にあたっていく。

2. 学習活動

(5) 十分な教材研究をして授業に臨むことが出来たか。

20年度	A	58.3	B	41.7	C	0.0	D	0.0
19年度	A	26.5	B	64.7	C	8.8	D	0.0
18年度	A	30.4	B	56.5	C	8.7	D	4.4

Aが非常に増えた。本校にとって根幹となる最も大切なものである。さらに高めたい。

(6) 専門分野について常日頃学び続けているか。

20年度	A	50.0	B	50.0	C	0.0	D	0.0
19年度	A	42.4	B	48.5	C	9.1	D	0.0
18年度	A	47.9	B	47.8	C	4.3	D	0.0

A、Bで100%となった。今後も授業を支えるバックボーンとして意識し努めていく。

(7) 授業の改善を行おうと努めているか。

20年度	A	62.5	B	37.5	C	0.0	D	0.0
19年度	A	47.1	B	47.1	C	5.9	D	0.0
18年度	A	52.2	B	39.1	C	8.7	D	0.0

教科内授業研究を充実させてCを無くすように努める。

(8) 生徒の理解をさらに深めるために、あるいは生徒の視野を広げるために補助プリント等の作成を行ったか。

20年度	A	70.8	B	25.0	C	4.2	D	0.0
19年度	A	48.5	B	45.5	C	6.1	D	0.0
18年度	A	56.5	B	34.8	C	8.7	D	0.0

様々な方法を用いて生徒の理解を深めていく。

(9) ① ベテラン、中堅の先生は、若手の先生に、直接的、間接的に、授業、教材研究、自主研究の姿勢を示そうと努めたか。

20年度	A	27.8	B	44.4	C	27.8	D	0.0
19年度	A	12.9	B	35.5	C	45.2	D	6.5
18年度	A	15.0	B	35.0	C	40.0	D	10.0

(9) ② 若手の先生は、ベテラン、中堅の先生から、直接的、間接的に上記①の姿勢を学ぼうと努めたか。

20年度	A	63.6	B	27.3	C	9.1	D	0.0
19年度	A	50.0	B	40.0	C	10.0	D	0.0
18年度	A	27.3	B	45.5	C	27.2	D	0.0

年齢を越えて切磋琢磨したい。積極的にベテランが範となり若手と意見交換を重ね共に成長を図りたい。若手の意欲を活かしたい。

(10) 学力をつけることは授業の大きな目的だが、自分の授業でこういう面を伸ばしたいという目的を持って授業を行ったか。(A. 1建学の精神の実現 (1)との関わりで)

20年度	A	45.8	B	45.8	C	8.3	D	0.0
19年度	A	41.2	B	44.1	C	14.7	D	0.0
18年度	A	43.5	B	47.8	C	8.7	D	0.0

年々Aが増加している。学力をつけることは勿論、建学の精神、学校目標を意識して授業を行っていく。

### 3. 生活指導

(11) 「クラス担任・副担任の任務」及び「学年主任・担任・副担任・授業担当者の仕事補助」(共に全体職員会で配布)に折に触れて目を通したか。

20年度	A	25.0	B	45.8	C	20.8	D	8.3
19年度	A	22.9	B	42.9	C	25.7	D	8.6
18年度	A	23.8	B	52.4	C	19.0	D	4.8

C及びDが減少した。A及びBが増えるように、任務を確認し折に触れて初心に立ち返り生徒に対したい。

(12) 「クラス担任・副担任の任務」及び「学年主任・担任・副担任・授業担当者の仕事補助」(共に全体職員会で配布)に記されていることを実行するように努めたか。

20年度	A	50.0	B	45.8	C	4.2	D	0.0
19年度	A	26.5	B	64.7	C	8.8	D	0.0
18年度	A	38.1	B	52.4	C	9.5	D	0.0

A及びBが増加している。クラス運営の基本を守り教員が互いに協力する中でより増加するように努めていく。

(13) 適切な言葉遣い、態度で生徒と接したか。

20年度	A	66.7	B	33.3	C	0.0	D	0.0
19年度	A	37.1	B	48.6	C	14.3	D	0.0
18年度	A	47.9	B	47.8	C	4.3	D	0.0

マナーを重視し、女子教育という点からも意識を高め実践していく。

(14) 正すべきところは、愛を持って、粘り強く指導していくことができたか。

20年度	A	66.7	B	33.3	C	0.0	D	0.0
19年度	A	42.9	B	51.4	C	5.7	D	0.0
18年度	A	43.5	B	56.5	C	0.0	D	0.0

A及びBが増えている。より生徒理解に努め改善に努める。

(15) 様々な場での校長、生徒指導部長からの依頼等を、実現するように努めたか。

20年度	A	58.3	B	41.7	C	0.0	D	0.0
19年度	A	40.0	B	57.1	C	2.9	D	0.0
18年度	A	60.9	B	39.1	C	0.0	D	0.0

今後とも生徒を導く意図を理解し協力して事に当たっていく。

### 4. 校務分掌

(16) 責任を持って自分の役割を果たしたか。

20年度	A	70.8	B	25.0	C	0.0	D	4.2
19年度	A	54.3	B	34.3	C	8.6	D	2.9
18年度	A	60.9	B	34.8	C	4.3	D	0.0

Aが増加した。全員が自分の役割を再認識し責任を果たしていく。

(17) 状況を見て、他の部署の仕事であっても、積極的に手伝えることが出来たか。

20年度	A	25.0	B	45.8	C	25.0	D	4.2
19年度	A	28.6	B	40.0	C	25.7	D	5.7
18年度	A	40.9	B	31.8	C	27.3	D	0.0

Dが減少した。学校を支える共同体としての意識を高め事に当たっていく。

(18) 自分の立場で何が出来るかを考え、必要な場合は提案を行うなど、所属部署の活動に積極的に関わることが出来たか。

20年度	A	54.2	B	41.7	C	4.2	D	0.0
19年度	A	37.1	B	45.7	C	14.3	D	2.9
18年度	A	43.5	B	43.5	C	13.0	D	0.0

提案しやすい雰囲気作りを図り前向きな姿勢を勧めていく。

B. 教職員のあり方について

(19) 一人ひとりの生徒を神から愛されている存在として尊重することが出来たか。(対生徒)

20年度	A	58.3	B	37.5	C	4.2	D	0.0
19年度	A	48.6	B	45.7	C	5.7	D	0.0
18年度	A	69.6	B	30.4	C	0.0	D	0.0

本校が最も大切にしている事柄である。Aを増やすようにさらに意識を高めていく。

(20) 自分の考えとは異なることであっても、組織の一員として、会議等での決定事項は尊重し、決定の実行、実現に努めたか。(組織の中で)

20年度	A	62.5	B	33.3	C	4.2	D	0.0
19年度	A	42.9	B	51.4	C	2.9	D	2.9
18年度	A	39.2	B	56.5	C	4.3	D	0.0

Aが増加している。今後とも率直な意見交換を十分図った上で協力できる素地を作る。

(21) 職場での時間と個人の時間を共に大切にするという意識で生活しているか。(生活)

20年度	A	54.2	B	37.5	C	4.2	D	4.2
19年度	A	34.3	B	51.4	C	11.4	D	2.9
18年度	A	43.5	B	30.4	C	17.4	D	8.7

仕事と生活の良いバランスがとれるよう様々な工夫を心がける。

C. 当面の、あるいは将来に向けての課題 [学校として]

(22) 様々な場で生徒の自立心を養える機会を設定出来る学校であったか。(生徒の学校生活)

20年度	A	16.7	B	58.3	C	16.7	D	8.3
19年度	A	20.0	B	45.7	C	34.3	D	0.0
18年度	A	13.0	B	56.5	C	26.1	D	4.4

生徒を指導する場面で「自立心」を養えるよう意識して対応する。

(23) 一人ひとりの個性を見出し、伸ばせる学校であったか。(生徒の学校生活)

20年度	A	25.0	B	54.2	C	20.8	D	0.0
19年度	A	14.7	B	58.8	C	26.5	D	0.0
18年度	A	13.0	B	52.2	C	30.4	D	4.4

Aが増加。一人ひとりに向かい合い、生徒理解を図る努力を続けていく。

(24) 日常生活で言葉遣いや礼儀の指導が充分になされている学校であったか。(生徒指導)

20年度	A	29.2	B	58.3	C	12.5	D	0.0
19年度	A	28.6	B	57.1	C	14.3	D	0.0
18年度	A	30.4	B	47.8	C	17.4	D	4.4

人を尊重する姿勢はまず言葉遣いからを教師が率先する。

(25) ① 特進コースにおいて志望する進路を実現するのに必要な学力をつける体制になっているか。

20年度	A	8.3	B	58.3	C	25.0	D	8.3
19年度	A	12.5	B	46.9	C	40.6	D	0.0
18年度	A	10.5	B	63.2	C	21.1	D	5.2

Aが減少した。課題を分析し一層の改善を図る。

(25) ② 進学コースにおいて志望する進路を実現するのに必要な学力をつける体制になっているか。

20年度	A	16.7	B	75.0	C	8.3	D	0.0
19年度	A	12.1	B	54.5	C	33.3	D	0.0
18年度	A	9.5	B	71.4	C	14.3	D	4.8

①と同様に課題を分析し対応していく。

(25) ③ 中学において志望する進路を実現するのに必要な学力をつける体制になっているか。

20年度	A	8.3	B	70.8	C	16.7	D	4.2
19年度	A	14.7	B	50.0	C	35.3	D	0.0
18年度	A	13.6	B	68.2	C	4.5	D	13.7

Dを無くすよう課題を克服して高めていく。

(26) 学校としてキャリアガイダンスが計画的になされているか。(進路指導)

20年度	A	20.8	B	54.2	C	20.8	D	4.2
19年度	A	23.5	B	50.0	C	26.5	D	0.0
18年度	A	9.1	B	45.5	C	44.5	D	0.9

学校挙げてキャリア教育体系の構築を図り指導を行う検討を進めている。

(27) 教職員間の仕事の配分は適切であったか。(学校運営)

20年度	A	0.0	B	41.7	C	41.7	D	16.7
19年度	A	2.9	B	57.1	C	28.6	D	11.4
18年度	A	0.0	B	22.7	C	63.6	D	13.7

C、Dが増加している。校務分掌など配慮しながら協力体制を整える。

(28) 会議は能率的に運営されているか。(学校運営)

20年度	A	12.5	B	58.3	C	25.0	D	4.2
19年度	A	8.6	B	37.1	C	48.6	D	5.7
18年度	A	17.4	B	30.4	C	52.2	D	0.0

A及びBが増加。会議の進め方、場の設定など改善をいっそう進める。

(29) 勤務時間内に行う事務処理等の仕事量は適当であったか。(学校運営)

20年度	A	8.3	B	66.7	C	12.5	D	12.5
19年度	A	11.8	B	47.1	C	26.5	D	14.7
18年度	A	0.0	B	52.2	C	26.1	D	21.7

C,Dを減らすために仕事の分担、協力等工夫していく。

(30) 共通の目標に向って組織として行動出来ているか。

20年度	A	4.2	B	58.3	C	25.0	D	12.5
19年度	A	5.7	B	51.4	C	34.3	D	8.8
18年度	A	13.0	B	26.1	C	34.8	D	26.1

Dが増加。共通の目標に向かえるように一層の意思疎通や共通理解の機会を増やしていく。